

「MEGURU Project 2022」の開催について

市長

本日は、浦賀地域のさらなる魅力発信のイベントとして「MEGURU Project 2022」の開催についてご報告をさせていただきます。

昨年に引き続き、今年も浦賀を舞台とした「MEGURU Project」の開催が決定し、大変うれしく思っています。

昨年、大変好評いただいた「MEGURU Project」は、本市が中心となり実施いたしました。今回は、多くの民間事業者や地域の関係者の皆さまが主体となって、本市と共同で実施できることとなりました。

本日は、民間事業者の中心となっていただきました、株式会社トライアングルの鈴木社長および浦賀地域を代表して浦賀観光協会の岡会長にご同席をいただいております。ご同席いただき、お二人に感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

今回の事業が、参画される民間事業者の皆さまのさらなる事業展開につながり、浦賀地域の経済の活性化や魅力発信、ひいては横須賀全体の活性化につながると考えています。

横須賀市といたしましても、浦賀地域は、今後の横須賀の観光における重要な拠点であり、民官連携により、盛り上げてまいりたいと思います。イベントの詳しい内容については、後程、説明があると思いますが、今回新たに、日本人で初めて気球を上げたのが、明治の横須賀であったという史実をもとにした、熱気球の搭乗体験の実施や、浦賀レンガドック内という、特別な場所にステージを設置してのエンターテインメントプログラムの実施など、ワクワクする内容が盛りだくさんとなっております。私自身、とても楽しみにしているところです。

今回の「MEGURU Project」をきっかけとして、浦賀地域の魅力を、より多くの方々に知っていただくことで、本市が取り組むルートミュージアムの発展にもつながるものと考えています。ぜひともこれを機会に、歴史あふれる浦賀、そして横須賀にお越しいただき、開国の息吹を感じていただきたいと思っております。私からは以上です。ありがとうございました。

株式会社トライアングル 代表取締役 鈴木様

皆さま、本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

このたび、横須賀市、浦賀観光協会をはじめ、17の企業・団体が集まり「MEGURU Project 2022」を開催できることになりました。まずは、皆さまの多大なるご協力に心から感謝申し上げます。皆さまご存じだと思いますが、ポスターにある「302」という数字は、浦賀奉行所が開設されてからの年数です。一見して中途半端な「302」という数字ですが、ここには思いがあります。

200や300などの節目にイベントを実施することが多いのですが、「302」でも、その300年という歴史を大切にしたい。浦賀の街の人だけではなく、市外の人にもそこを感じてほしい。という思いから、このイベントを企画しました。

今回、幅広く地元の皆さまの協力を得て、様々な企画が実現できました。浦賀の魅力を1番知っている方々のお力をお借りし、訪れる多くの方々にありのままの浦賀を見ていただき、温かい人に触れ、街を歩き、たくさんの発見を体験していただきたいと思っております。

浦賀の街の長く深い歴史、地元の皆さまのスピリッツ、海、乗り物、そして世界的に貴重なレンガドックなど、浦賀の街には、数え切れないほどの魅力があります。これらを歴史探索やクルーズ、エンターテインメントも含め謎解き、音楽、ワークショップなどの多彩な企画でつなぎ、街

を巡って楽しんでいただく、これが「MEGURU Project 2022」になります。
ぜひ、このポスターを見ていただき、横須賀市民の方もそれ以外の方も「302年」って何だろうというところに思いを馳せていただき、浦賀のファン、そして浦賀を起点とした横須賀のファンを1人でも増やしていきたいと思っています。
まだまだ発展途上のイベントですが、全力で取り組んでいきますので、皆さまよろしく申し上げます。私からは以上です。

浦賀観光協会会長 岡様

本日はお集まりいただきありがとうございます。
上地市長、そして鈴木社長からお話があったように、今年の「MEGURU Project」は、横須賀市と民間事業者が、より強気に連携し、開催することになりました。これに私たち地元も協力させていただき、浦賀の街に、「賑わい」と「活力」が生まれるような、素晴らしいイベントになればと思っています。皆さま方のご協力を切にお願い申し上げます。
今回は、昨年さらにパワーアップして、壁新聞の作成や街の歴史や未来を考えるワークショップなど、地元の若い方々が街について考えるきっかけとなるプログラムがあり、とても楽しみです。さらには、浦賀の街を舞台とした謎解きや街歩きツアーなど、いままで浦賀を知らなかった観光客の皆さま方に、この街の良さを知っていただく、良い機会になると思っています。
今回実施する取り組みを通じ、横須賀市民の皆さまに浦賀の歴史や街を再発見していただくとともに、各地からいらっしゃる観光客の皆さまには、浦賀の良さを感じていただき、また足を運んでいただければと思います。
地元一体となって取り組んでいきますので、どうぞご支援・ご協力をお願いいたします。
私からは以上です。ありがとうございました。

■事業概要説明

株式会社トライアングル営業企画部 岩澤様

まず、昨年度実施した「MEGURU Project」ですが、「第15回産業観光まちづくり大賞 観光庁長官賞」を受賞することができました。コンテンツをやらせていただいた御社といたしましても本当に誇らしいことだと思っています。ご協力いただいた皆さま方におかれましては、感謝いたします。

これを踏まえ、今年の「MEGURU Project 2022」について、企画概要をご説明させていただきます。首都圏の要衝として歴史の舞台になってきた街、浦賀。近代では船を中心とした、日本の旅客が物流を支えた場所として栄えてきました。そしていま、高度経済成長期を支えた拠点としての役割は小さくなりましたが、造船を支えたレンガ造りのドックや古い町並みはいまもそのまま。もちろんここに暮らす人たちには、長い歴史に育まれたスピリッツが受け継がれています。この歴史ある街を多くの人に見ていただき街の空気を体感していただき、文化や歴史や人びとの心意気を感じていただきたい。それが「MEGURU Project」。街を巡って新しい空気を胸いっぱい感じる11日間。浦賀の街のすべてがここにあります。

続いて、コンセプトについてですが、「浦賀302年目の新発見」です。

このプロジェクトを通じ、獲得したいレガシーは、浦賀の知名度の向上、浦賀および横須賀の近世から近代史への掘り起こしと再認識です。ちなみに今年は、浦賀奉行所開設302年。そして、ペリー来航169年、浦賀レンガドック完成123年にあたります。

その他、浦賀ドック周辺における新たな観光コンテンツの開発。新たな浦賀および横須賀の観光ツアーの開発と誘致。浦賀ドックおよび周辺施設の有効活用。地元住民の誇り、おもてなしマインドの醸成。浦賀を伝えるガイドの育成。浦賀エリアから波及する横須賀市全体の観光活性化で

す。

これより具体的な内容について、ご説明させていただきます。

「MEGURU Project 2022」の期間は、去年と比べ短い、1ヶ月間となります。11月12日から12月11日の土・日、祝日のみの「11日間」です。

実施体制は、「YOKOSUKA MEGURU Project 実行委員会」です。会長として株式会社トライアングル代表取締役の鈴木。そして副会長として、横須賀市文化スポーツ観光部長の倉林部長。そして顧問として、浦賀観光協会の岡会長、郷土史家の山本詔一先生となります。その他にも非常に多くの方々にご協力いただいております。

そして開催時間ですが、朝8時半から16時30分を昼の部、16時30分から20時までを夜の部として設定しており、コロナの状況等もありますが、お酒の提供も考えています。

実施するコンテンツについて説明します。

1 「浦賀港周遊歴史満喫クルーズ」

前回好評であったコンテンツで、「浦賀ドック」を出港し、ペリーが錨を打った「アンカリングポイント」までのクルーズです。

2 「浦賀ドック見学ツアー」

こちらも前回好評だった日本唯一のレンガ積みのドライドックを巡るガイドツアーです。

3 「千代ヶ崎砲台見学ツアー」

前回、「浦賀ドック見学ツアー」とセットで実施していましたが、今回は、千代ヶ崎砲台の単独ツアーです。昨年度、一般公開された千代ヶ崎砲台をガイドと一緒に巡るツアーです。

4 「浦賀街歩きツアー」

こちらは新しい取り組みになります。

浦賀の街は、多くの歴史があり、魅力あふれる場所です。この街の中をガイドと一緒に巡ってもらう企画です。

5 「浦賀に熱気球がやってくる」

先程、市長からのご説明であったとおり、日本人で初めて熱気球を飛行させたのが明治の横須賀ということで、このような歴史背景から、浦賀で熱気球を飛ばすという新たなチャレンジをしたいと考えています。

前はヘリコプターでしたが、騒音等の問題もあったため、今回は熱気球を飛ばし、新たな魅力を発信していきたいと思っています。こちらは遊覧ではなく、その場で上昇し、上空からドックの全景を見ていただくものです。

6 「浦賀謎解き街あるき」

各地で流行している謎解きイベントで、実際に浦賀の地を歩いていただき、街の魅力を堪能してもらうツアーです。今回、この謎解きイベントの問題を東大王の伊沢さんが所属する知識集団「QuizKnock」に作っていただいています。また、この謎解きは、イベント期間終了後の2月11日までお楽しみいただけます。

7 「世界に1つだけの「浦賀新聞」をつくろう」

市内の小学校5・6年生に呼びかけをし、浦賀の歴史を学ぶ取り組みです。

「浦賀奉行所」や「黒船のペリー」、「浦賀のレンガドック」のテーマに、地元の小学生が街の

方々に聞きとり等を行い、大きな新聞を作ってもらいます。こちらは、来場いただいた皆さまにも見ていただけるようになっています。

8 「小中高生が浦賀の街を昔といまを考える公開ワークショップ」

浦賀の文化センターには、幕末の西浦賀の模型が眠っています。これを組み立て、その後、フィールドワークにて、街を見て学んでいただく。そして、フィールドワークを踏まえ、レゴを使い未来を表現、可視化するというプログラムです。

9 「第1回「ご当地クルーズ」サミット」

当社では「YOKOSUKA 軍港めぐり」を運営していますが、実は、軍港と呼ばれる「佐世保、呉、舞鶴」でも、この軍港めぐりのようなイベントが実施されています。旧軍港4市は、行政レベルでは協力し、日本遺産に積極的に取り組んでいます。

民間同士においても何か協力し合えないかということで、「クルーズネットワーク」という協議会を開く運びとなりました。その第1回目として、クルーズサミットを実施します。

官民が連携し、日本遺産を盛り上げていきたいと思っております。

10 「浦賀ドックシアター／浦賀ベイステージ」

今回、新たな取り組みとして、浦賀ドックの中にステージを設け、さまざまなライブやショーなどのエンタメコンテンツを行う予定です。実施予定であるコンテンツについて説明いたします。

(1) レ・フレール 20 周年ライブ

20 周年を迎える、横須賀出身のピアノデュオ「レ・フレール」が、11 月 23 日にスペシャルライブを行います。

(2) 浦賀ショートムービープロジェクト

横須賀にゆかりがある矢城監督が手がける、いまの浦賀を表現していただくムービープロジェクトです。主演は、BMXの大和選手に出演していただく予定です。

(3) 浦賀ドックシアタースペシャルライブ

現在、調整中ですが、横須賀ゆかりのあるアーティストに出演していただく予定です。

(4) ～ (6) は、お笑いイベントです。

地元の方々を中心に出演いただき、おなじみの 0468 スタイルなど、盛り上がるイベントになればと思っています。

(7) 海上自衛隊音楽隊の演奏

全国的にも有名で、ファンの多いコンサートです。

(8) 4 社コラボツアー スペシャルトークライブ

ツアー内容については、後程ご説明しますが、旅行系の動画で人気のユーチューバー「スーツさん」のスペシャルトークライブを行います。

(9) 横須賀学院中学校・高等学校の吹奏楽部演奏会

東関東大会などでも銀賞を受賞するほどの腕前を持っております。学生たちにも出演していただき、この浦賀を盛り上げていただきます。

(10) 浦賀ドックナイトツアー

普段はなかなか入ることができない夜に、浦賀ドックの中をガイドと巡るナイトツアーです。

(11) 三浦半島から誕生！音楽と表現の自由を守るコントラバスヒーロー！

地代所悠さん自作自演の特撮ヒーローと音楽を融合した物語です。

(12) 浦賀の夜空を照らせ！レンガドック×三浦学苑高等学校

今年の七夕、東京タワー前の増上寺にて行われた、200 個のキャンドルを使ったライトアップ。これを浦賀ドックの中でもやっていたらと計画をしています。

続いて、浦賀ドック上の「浦賀ベイステージ」でのコンテンツについて説明します。

(1) BMX パーク／フラットランドの実演＋体験会

実際に BMX のプロによる実演や、子ども向けの体験会を実施します。

飲食について説明します。

11 「キッチンカービレッジ／URAGA マルシェ」

8 台のキッチンカーを常時、用意する予定です。地産地消やイタリアン、ハワイアンなどバラエティーに富んだラインナップを揃えたいと思っています。また前回、非常に大人気だったマルシェも行います。地元の野菜や三浦半島の食材などさまざまなものがここで買えるようなマルシェを開こうと思っています。

12 「鉄道×船 スペシャルコラボツアー」

先程ご説明させていただいた、ユーチューバー「スーツさん」とのスペシャルコラボツアーの詳細となります。

神社に「御朱印」というものがありますが、同じように、クルーズ船に乗ると印鑑を押してもらえる「御船印」が、ちまたで流行しており、ここにも取り入れていきます。具体的な内容は、記載のとおりです。

13 「オープントップバス&観光バス お帰り便」

今回、イベント会場内でお酒を提供するため、市内外から多くの方に来ていただくようにバスをご用意しています。こちらのルートとして、「横須賀美術館」や 10 月にオープンする「横須賀ポートマーケット」などにも寄る予定です。

14 「各地からのツアー造成」

実行委員の中に旅行会社が 3 社あります。この 3 社にツアーを造成していただき、地元だけではなく、全国からお客様を集客したいと考えています。

15 「浦賀等発着の船舶実証運航」

この「MEGURU Project」の中で、さまざまな場所への周遊船を出します。この事業を通じて、船に乗る楽しさを皆さまに知っていただけたと考えています。

コンテンツについては以上です。

続いて、「MEGURU Project 2022」の集客と PR についてです。

昨年、3 ヶ月間で 1 万 6,000 人の方にお越しいただきました。今回、期間は短いですが目標はそ

の倍の、3万人を目指しています。

未だ、確定しない部分も多くありますが、以上が今回の企画概要となります。

最後に、去年の「MEGURU Project」は、横須賀市の協力はもちろんのこと、地元の方々のご理解とご協力があったからこそ成功したイベントと思っています。

今年の「MEGURU Project」は、地元の方々に愛してもらえるイベントにしたい。また、地元の方々と一緒に作り上げていきたいと思っています。

トライアングルの企業理念でもある、「地域、人、未来」。地域の方々と人の力で、未来を作り上げていく、これがまさに「MEGURU Project」なのかなと思っています。

たくさんの意見をいただきながら一緒に作り上げ、毎年くる1つのお祭りとして愛してもらえればなと思っています。

■質疑応答

記者

今回のプロジェクトですが、浦賀や横須賀の観光にとって、どのような効果があるのか改めて伺います。

市長

浦賀は横須賀の中で、開国の街として位置づけられる地域です。私は、「第2の開国」といつも言っていますが、横須賀の観光の完了地点も、浦賀であると思っています。浦賀に始まり、浦賀に終わらなければ、観光立市というものはできない。「MEGURU Project」の最終的な拠点は浦賀であり、浦賀を通じて横須賀の発展を目指していきたいと思っています。今年、トライアングルさんにより、新たな展開を迎えられたことは大変うれしく、いよいよ横須賀の観光の完成に近づいているのではないかと、確信をしています。

株式会社トライアングル 代表取締役 鈴木様

今回のイベントをひと言でいうと、横須賀、浦賀の地域密着型の体験型イベントです。

浦賀地域は観光という側面では、まだまだ発展途上だと思っています。コロナの行動規制が緩和される中で、地域の人たちとイベントを創ることができるすごくいいタイミングだと思っています。これにより、地元の観光に対する気運を醸成し、その土台を生かして、来年はさらに大きなイベントとしたいと思っています。

浦賀観光協会会長 岡様

三浦半島の中核市として、商業や工業で先頭を切って走ってきた浦賀ですが、残念ながら、経済的な力が非常に衰えてきており、次の新しい街づくりの視点まで到達できてない段階です。浦賀の人たちの将来のあり方として、浦賀の持っている財産、伝統、芸能など、これらひっくるめて浦賀を観光という視点から街をもう1回活性化したいと考えています。そのため、単なるイベントというだけではなく、イベントの中で人づくりということも考えていきたいと思っています。また、三浦半島全エリアを対象とした観光ということで、三浦半島のこれからの経済的、また地域の文化レベルの向上等につながっていくと思っています。そういう面で、歴史ある浦賀の持つ文化や資産を浦賀だけのためではなく、各地に発散させ、全市的な観光の1つポイントにしていければと思っています。今年は大河ドラマで、三浦半島地域が注目されていますが、そのような追い風の時期も捉えながら、歴史、文化というものをこの地域から発散させていければと考えています。

記者

盛り沢山のイベントの中で、目玉コンテンツの1つとして「熱気球」があげられると思います。この横須賀で初めて上げられたという史実があるとのことですが、こういった経緯であったのか等分かれば教えてください。

文化スポーツ観光部観光課 職員

明治4年1871年11月22日、横須賀造船所の第2船室の第1礎石を添える儀式の際、明治天皇の前で、日本人の造船所の中のこう舎の生徒がつくった気球をモンゴルフィエ兄弟の子孫の方の指導のもと揚げたというのが公式の記録で初めてとなっております。

■案件以外の質疑応答

記者

現在、最新鋭のステルス駆逐艦ズムウォルトが横須賀に寄港しているかと思いますが、一部の報道で、横須賀を拠点とする駆逐戦隊に配属されたとのことですが、横須賀を母港にするなどの情報は、横須賀市に入っているのでしょうか。

市長特命参与

事実関係について、南関東防衛局に確認しましたが、そのような情報はまったく得られておりません。

記者

もし入った場合、ステルス性能が高く、ミサイルを積んでいる船なので、特に北朝鮮や中国への抑止力になるかと思うのですが、そういった船が寄港することについて、市としてどのように感じていますか。

市長

仮定の問題には、お答えしかねます。

記者

第7艦隊のエリアに船が来たということで、もともと第15駆逐戦隊は第7艦隊の配下であるため、そのエリアに入れば、その組織の下に入るのは、当然かと思えます。

先程の南関東防衛局の見解は、そのような観点で、横須賀を母港とするわけではない、という認識なのですか。あるいは、いまのところ何も情報がないという話なのですか。

市長特命参与

南関東防衛局にそのような情報はないとのこと。

また、先程、例えば第5艦隊の船が第7艦隊のエリアに来れば、そこで編入されるということもあるとは思いますが、それはあくまで米軍の運用の話になりますので、我々からコメントはできかねます。